

温故知新セミナー

たむけ

# 士塾 講演録

〈歴史をつくった人たち〉

第2回 田倉正司



公益財団法人  
富士社会教育センター



## プロローグ

労働運動に汗した先輩から「志した運動」「歩んだ道」を語っていただく目的で令和元年8月にスタートした温故知新セミナー「土塾」第2回を令和元年9月17日に開催しました。

講師は印刷労連前委員長の田倉正司氏です。田倉氏はトッパン・フォームズフレンドシツプユニオンの福生支部で階級的労働運動から民主化を成し遂げた当時のリーダーであり、その後、三多摩地区での活躍を踏まえ、中央本部の書記長、執行委員長を歴任し、産別である印刷労連の委員長と、ご活躍された方です。

トッパン・フォームズがオープンシヨップであることはあまり知られていない事実であり、他組織から脱退させ、自由にして民主的労働運動を指向している自組織に加盟させること、新入組合員の加入取り組みなど、「組織強化」の原点を経験された方です。そんなことから、教育の大切さを常に訴えてきました。

私ごとですが、田倉氏とは30余年前に同じ研修会でご一緒したのが出会いでした。縁を大切される方で、その後お互いに立場が変わりましたが、久しぶりに会った際に、お声をかけ

てくださり、とくにユーモアたっぷりの談笑、時には熱い情熱あるお話を交わしたことが思い出されます。

今回も「こんな私の経験でも役に立つなら」と、役員改選、職場復帰準備のご多忙のなか、ご講演の機会をいただきました。

今回セミナーでは、時間の関係と誌面の都合から、こちらからお話いただくテーマを選定させていただきました。したがって、田倉氏の運動・活動の一部であることをご了承ください。作成にあたり、ご出身のトッパン・フォームズフレンドシップユニオンに資料・写真提供のご協力をいただきました。ありがとうございました。

(公財) 富士社会教育センター 常務理事 武田 仁

もくじ

イントロダクション 6

第一部

組合とのきつかけ 7

御殿場本校の思い出 10

いよいよ組合役員に 12

思いがけず単組書記長へ 〳労働時間の協議で思ったこと〳 17

単組委員長就任へ 〳事業再編に伴う分社化への対応〳 22

そして上部団体へ 〳7つの地方本部から11の地方協議会へ〳 26

今後について 29

(質疑応答) 30

第二部

綱領を土台とした労働運動を 37

友愛会綱領 39

今後の労働の存在価値を高める 40

民主化闘争について 42

2つの労働運動のなかで ↳トッパン・ムーア労働組合と全トッパン・ムーア労働組合↳ 45

変化する組合情勢と労働環境のあり方 49

(質疑応答) 52

### 第三部

共感を呼ぶ組合活動を 68

労働組合が直面する危機 71

(質疑応答) 73

### 第四部

今後の組合のあり方 78

組合員から評価される活動へ 80

組合員への教育の重要性 84

|               |    |
|---------------|----|
| 労使協議会と団体交渉の違い | 86 |
| 安全第一の活動を      | 88 |
| 外部組織と共存を目指して  | 89 |
| 国際的活動の必要性について | 91 |
| (質疑応答)        | 93 |

## イントロダクション

どうもみなさんこんにちは。ご紹介いただきました田倉と申します。本来であれば印刷労連の田倉なのですが、ご案内の通りで、8月30日の大会において、長い長い労働運動の歴史、私自身の歴史を閉じさせていただきました。今はとりあえずこの事務所におりますが、来月から職場復帰する予定です。不祥事がなければですが。

富士社会教育センターには、私も20代前半のころから本当にお世話になっておりました、単組の時も、民主化運動の支援をしていただいたこともあり、恩返しとは言いませんが、最後の最後に私の今までの経験も踏まえてお話をさせていただきたいと思えます。富士社会教育センターの「何でも使っちゃえ」という(笑)、「今なら田倉、チャンスだぞ」と、「戻ったらダメだから今やらせろ」ということだと思えますので、できる限りのお話をしたいと思います。お待ちしております。



## 第一部

### 組合とのきつかけ

まず、若干略歴というか、私の社会人人生というか、その辺からお話したいと思います。私は1979（昭和54）年、当時のトッパン・ムーアという会社に入社しました。そして、東京郊外の福生工場、ビジネスフォームといって、コンピュータ帳票を専門にやっている工場に配属されました。また後でゆつくりお話しますが、当時はもう労使紛争がめちゃくちゃでして、結局そういう人たちがいるので、新入社員が採れなかつたんですね。で、採ったとしても、私の一番近い先輩でも4つ、5つぐらい上なんです。その間もめちゃくちゃ労使紛争をやっていたので、新入社員を採れる状況ではなかつたと聞いております。で、わが方の組合の一番近い人でも10歳離れている、そんな時代でしたので、非常に苦勞した反面、いろんなことで優遇されたかなと思います。すぐに何かのリーダーをさせてもらったり、すぐに職場の班長をやらせてもらったり、まあそんな時代でした。この辺については後でもう少しゆつくり話したいと思います。

労働組合とのつながりというか、付き合いのきつかけですが、たまたま入社したときに、当時のトップ・ムーアが、新入社員を全国から集めて集合研修をやっていたんですね。これは今でもやっているんですが、18歳とか22歳の子どもですから、やっぱり研修指導員みたいなのが付いて、生活から仕事のことから全て手取り足取り教えてくれました。そんな指導員の人が、当時の文化厚生部長、文厚部長をやっています、その方と同じ職場に配属されて、「お前もちょっと手伝ってくれ」というのがきっかけでした。で、最初が文厚部長だったんですね。1979年、18歳、文厚から入りました。

もちろん労働組合はいろいろ大事ですよ。勉強も大事ですし、リーダーシップも大事。でも、こういったコミュニケーション活動というか、レクリエーション活動、そういうところから入るのも一つのパターンじゃないかなと思いました。まあ、1979年ですから、当時は遊ぶことがそんなにないんですよ。パソコンもないし、ゲームなんかもないですし。でも、組合に行けば、飯も食えるし、酒も飲ませてくれるし、先輩がいろんな所に連れて行ってくれる。そういう意味では、私は組合で時間を潰せたというか、飯も食えた、酒も飲めたという、そんなところから始まったんです。そのころ文厚行事なんていいまずと、大体バーベ

キューとソフトボールがセットになっているとか、ソフトボールをやってバーベキュー大会をやるとか、そんな行事だったんです。それが楽しくて、楽しくて、年がら年中バーベキューをやるとか、まあそんなところから組合活動に入ったんです。

やっぱり楽しかったのが、自分の職場だけじゃない、他のいろんな職場の人とソフトボールをやったり、バーベキューをやったり酒を飲んだりできたことですね。そうすると、仕事に通ずるものが出てくる、仕事がやりやすくなるとかね。違う部署の人と交流があるがために仕事がりやすくなったとか、そういうことがありました。例えば、印刷部隊ですから、ちよつと失敗しちよつて紙を使いすぎちゃったと。そうしたら、紙を出荷する資材課っていう部署に行くとな怒られるんですよ。「お前ら紙使い過ぎ。いくらコストかけてんだ」と。でも前の日にバーベキューやったり何かしたりした人だと、「何だよ、お前また失敗したのか。ちよつとそこに転がっているの持っていけ!」とかね。そういう仕事のやりやすさっていうのは組合から学んだ部分があったんじゃないかなと思います。

そんな新入社員の時代を迎えまして、その次にやったのが教育です。教育広報、教宣、教育宣伝か。広報やったり、教育やったり。その部員ですからお手伝いですよね、最初は。ま

あその辺はその辺で、自分なりにやったんでしょう。先ほど言ったように、近い先輩がいな  
んですね。そうすると、入社6年の24歳で職場委員をやったんですへど、上の人はいるし、真っ  
赤っ赤な奴らもいっぱいいる。赤い奴らはまた違う組合なんです。やっぱり24歳でそうい  
うことをするのは大変でしたけど、職場をまとめることができたっていう経験が、今につな  
がった一つの原点だったのかなっていう気がします。

よく印刷だと「6年で一人前になれる」って言われたんですね。6年間印刷機を一生懸命  
やれば、一人前になれるって言って、丁度その頃だったのかもしれない。そしてすぐ上の  
先輩がいないので、相談するっていつても、先ほど言った10歳年上の教育指導員に相談して、  
いろんなことを教わりながら、やったのが24歳です。

### 御殿場本校の思い出

富士社会教育センターの、今でいうユニオンリーダースクールに行ったのも24歳です。放  
り込まれたんです。ほんとに放り込まれたっていう感覚でしたね(笑)。当時は厳しかった  
ですよ。朝放送が入るんですよ。「研修生何とか、今から起きろ！」とか言って、5時く

らいに起きて、まず御殿場のグラウンドを出て、ランニング。「呼称呼称、そーれ1、……」とかね、みんなで掛け声をかけながら、ランニングするんですね。でも、やはりそれは連帯感なんでしょう。乱れたら、「もとい、やり直し！」なんて言われて、そんなことをやりながら、勉強っていうか教育されました。

そして掛け合いコールですよ。また御殿場が独特なところで、広いじゃないですか。で、端から端で掛け合いコールですよ。で、「聞こえませーん」とか言って、「もといっ！」とかね。そんなのを何回も何回も、「いつになったら朝飯食えんだよ」みたいな(笑)、そんな厳しい研修でした。それで、昼間座学をやったり、いろいろ体験学習したり、デモの張り方とか、ピケの組み方とか、勉強しましたよ。絶対に倒れない、スクラムを組んでも倒れない、バーンって押したって絶対に倒れないピケの組み方とか、そういった軍隊みたいなこともやりました。でも、あれは、恐らく左翼運動に対抗するためにはこういうことを体験しておかないとダメなんだっていうことだったんだと、後で話しますが、私の出身のところの左翼運動でよく分かったんですね。ここを連帯して、あいつらを絶対に入れさせないとか、職場占拠させないとか、そういうことを富士社会教育センターがあそころ教えていたんですね。これ

は非常に役に立ったといえますか、自分自身の戒めにもなりました。

夜はまた、宿題をやらなきゃいけないんですよ。宿題というか、翌日発表なので、グループでディスカッションして、発表の資料を用意しなきゃいけないとか。で、結局寝る時間がないんですよ。まあ2泊3日ですし、若いからいいんですが、当時は酒も飲めなかったんです。「統率乱れるから飲酒はダメだ」とか言って。「こんな研修アリかよ！」と(笑)。18歳の会社の研修だって、打ち上げで飲めたりするじゃないですか(笑)。「ここはそれもないのか」と。でもやっぱり、これが労働運動の継承だなど思ったんですね。先輩たちが代々ここに来ているじゃないですか、他の企業からも来ているし。そうすると、ポケットにウイスキーを入れて持つてくるとかね(笑)。ちょっと大きいものをね、ウイスキーを持つてくると。これを夜中にちびちびやるのが楽しみですね。たった2泊ですけど、あれは相当長く感じましたし、そのときの仲間は本当に良い仲間でしたよね。24歳で、そんな経験をさせていただきました。

## つよつよ組合役員に

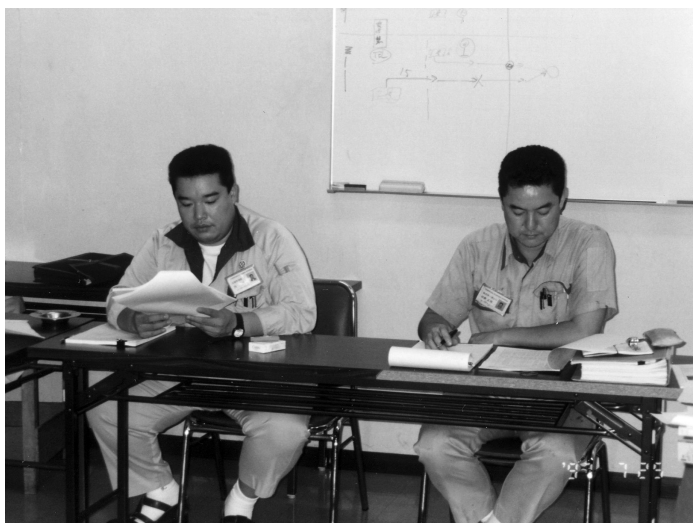
その後いよいよ私も執行委員になりました。26、27歳くらいだったかな。職場委員を1期

2年やって、26か27歳だったと思うんですが、支部の執行委員になりました。それから、支部の副支部長、書記長を歴任して、30歳のときに支部長をやらせていただきました。支部長は中央執行委員を兼ねるということもありまして、支部長兼中央執行委員という形で30歳の時に、中央執行委員になったわけです。中央の団体交渉に「いよいよ俺もだ！」ということ、出させてもらったのが30歳です。

そのころは、やっぱり時代の変化もあったんでしょうね。今みたいなデジタル化ではないんですが、紙の上に印刷する仕事から、データベースになって、データでやり取りしたり、あとは可変データというんですが、例えば、今も皆さんのところに電話料金とかガス料金とか、公共事業の料金表が届くじゃないですか。あの「どこの家の〇〇さんは、今月はいくら」っていうのが付加価値なんですよね。それまでの印刷というのは、内容は全部同じだったんですよ。で、コンピュータにかけるだけなのでね。でも、次にやったのが、コンピュータにかけるだけじゃなくて、コンピュータへの入力業務まで請け負ったので、非常に付加価値が高かった。そして、我々がガラガラガラ年がら年中回していたのとまたちょっと違う、そういう仕事でしたね。そこで出てきたのが、請求業務でした。



単組支部時代



単組支部時代



## 田倉正司 プロフィール

- 1991（平成 3）年 全トッパン・ムーア労働組合 中央執行委員、  
福生支部 支部長
- 1997（平成 9）年 トッパン・フォームズフレンドシップユニオン  
中央書記長
- 2003（平成 15）年 トッパン・フォームズフレンドシップユニオン  
中央執行委員長
- 2009（平成 21）年 印刷労連 中央書記長
- 2011（平成 23）年 印刷労連 中央執行委員長代行
- 2017（平成 29）年 印刷労連 中央執行委員長

温故知新セミナー “土塾” 講演録

〈歴史をつくった人たち〉

第2回 田倉正司

令和2年3月30日発行

発行所 公益財団法人富士社会教育センター

〒101-0024

東京都千代田区神田和泉町1-12-15 O Sビル3階

電話03(5835)3335

